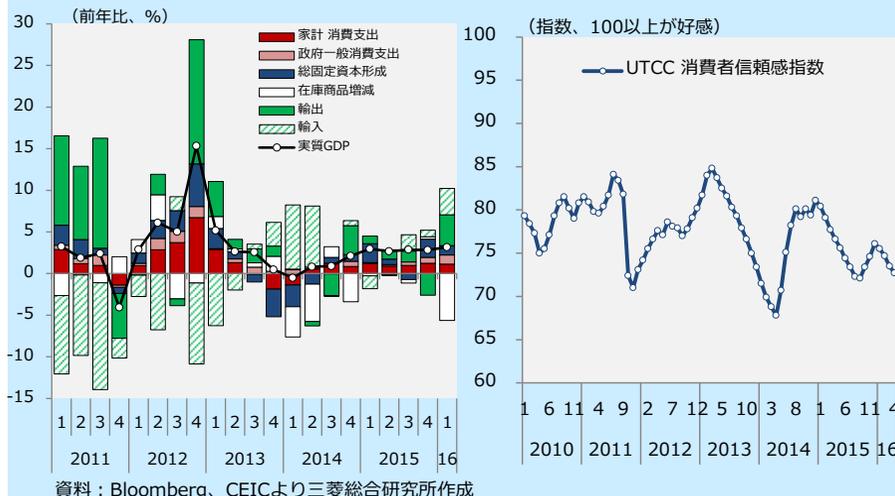


タイ：GDP（2016年1-3月期） —輸出増加も、力強さを欠く状況が続く—

MRI Daily Economic Points
May 17, 2016

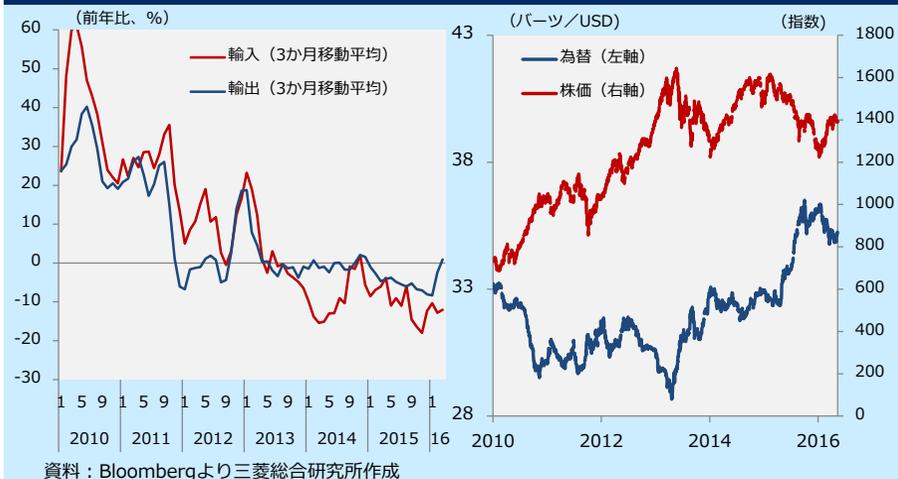
実質GDP

マインド



名目輸出入

為替と株値



評価ポイント

今回の結果

- 16年1-3月期のタイの実質GDPは、前年比+3.2%と前期（15年10-12月期：同+2.8%）から伸びが上昇。季調済み前期比でも+0.9%と、前期（同+0.8%）からやや加速した。
- 成長率上昇の主因は、輸出の増加である。実質輸出は、前年比+5.1%と前年から大きく増加、名目輸出（ドルベース）も16年2月には1年3か月ぶりにプラスに転じた。金輸出の急増や、軍事装備品の輸出拡大が背景になっている。
- 政府の景気刺激策により、政府消費も増加している。タイ政府は、農家や低所得者に対する支援などを実施、予算を前倒して執行している。
- 一方、実質家計消費は前年比+2.3%と、伸びは緩やか。14年以降続く干ばつによる影響で農業生産が低下、就業者の約3割を占める農業従事者の所得が減少したことから、家計の購買力が弱含んでいる。消費者マインドも、干ばつの長期化などから低迷が続いている。
- 金融市場は、為替が米国利上げ観測の後退などを背景に通貨安が一服しているほか、株値も1月中旬をボトムにやや持ち直している。

基調判断と今後の流れ

- 16年1-3月期実質GDPは、輸出の増加や政府による景気刺激策もあり、伸びが上昇した。ただし、家計消費の伸びは緩やかであり、タイ経済は依然として力強さを欠く状況が続いている。
- 先行きは、低調な家計消費を背景に、16年は3%程度の緩やかな成長を見込む。
- タイ経済の今後のリスクは、①降雨量の回復が遅れ干ばつがさらに深刻化すること、②憲法改正の国民投票に伴う政情の不安定化である。後者については、3月末に上院の任命制などを内容とした新憲法草案が公表され、憲法改正の是非について8月にも国民投票が行われる予定。軍事政権の権力強化が目的であるとして、タクシン派を中心に反発を強めており、政情の不安定化が懸念される。